

有限会社木村鉄工所

事業

付加価値向上及び生産性向上のため生産管理のデジタル基盤構築

対象類型

革新的サービス

導入機械装置

生産管理・刃物管理ソフトウェア、付属設備一式

経営理念

高技術、高品質、高付加価値を掲げてたゆまぬ努力を続けます。
誠実を旨とし、和を重んじ、社会に貢献します。

雲州平田で機械部品の製造を手掛け百余年の歴史刻む

1918（大正7）年に創業した木村鉄工所は、当時雲州平田を代表する産業だった紡績の機械部品製造でスタートし、百余年の歴史を刻んできた。1980（昭和55）年に旧平田市内の中心部から現在地に工場を移転し、同時に製造品目をブレーキペダルやマニュアルトランスミッション部品といった自動車部品へと移行。現在は、最新のNC旋盤、エアーを使用したロボットアーム、工場研削盤など充実した設備のもと、オートマチック車のトランスミッションや建設機械の部品加工を主軸に、高い技術と品質、高付加価値を経営理念に掲げ、事業展開している。

世界的に脱炭素社会への移行が進み、自動車業界も電気自動車やハイブリッド車へと大きく変革する中、部品加工業界には新たな加工技術への対応が求められている。こうした変化の厳しい局面において、木村鉄工所は自社の強みをさらに伸ばすため、生産性を向上させ、従業員がより付加価値の高い仕事に取り組める体制を整備することを目的として、デジタル生産管理システムの導入を決断。新しい経営基盤の構築を目指した。

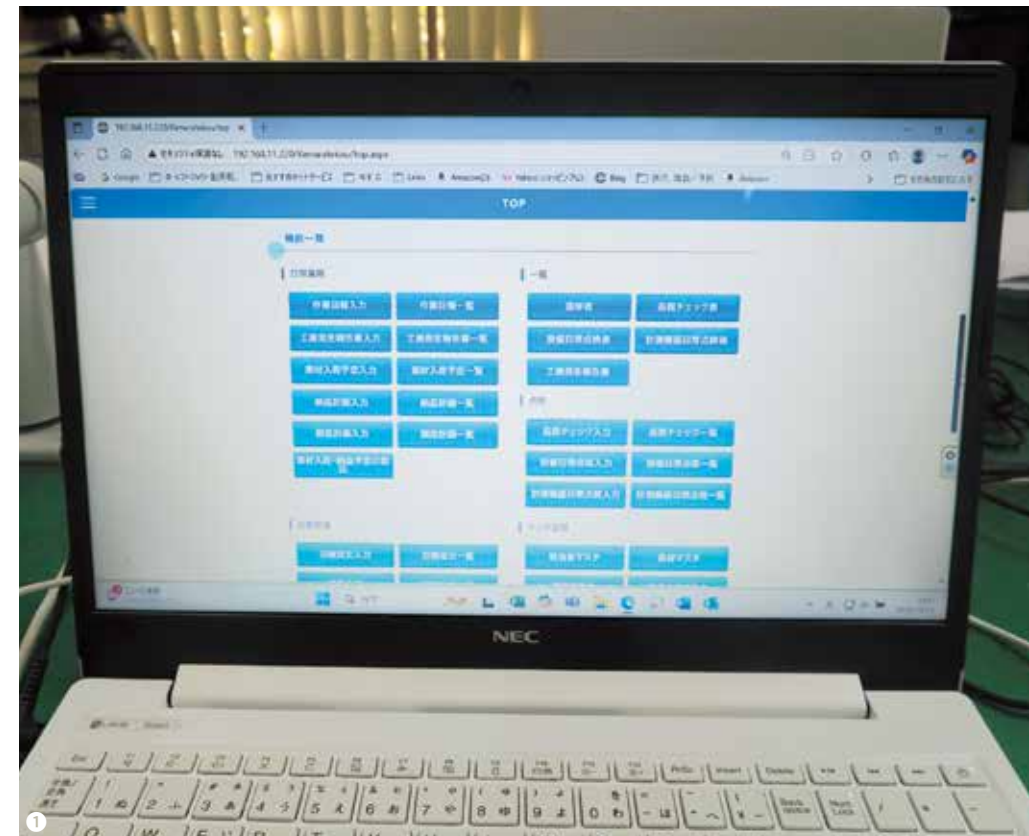
属人的管理からの転換で組織力を強化 若手育成と新事業領域への挑戦を支えるデジタル基盤

同社では長年、生産管理の多くを熟練担当者の経験と勘に頼る属人的スキルに依存していた。そのため、情報共有が滞りやすく、生産計画の調整や工程把握に時間がかかるなど、生産効率の低下が課題となっていた。

こうした悩みを解消するため、補助事業を活用して生産管理ソフトを導入。ソフトは、企業ごとの体制に合わせて柔軟にカスタマイズできる点が大きな特徴であり、同社では部品の受け入れから工程管理、納期管理、日報作成、不良品情報までを一元管理できるよう機能を整備。「業務の見える化」と「情報の共有」がリアルタイムで可能になったことで、工程全体の流れを把握しやすくなり、効率的な業務運営が可能となった。



品質管理課課長 福田 仁



- ①生産管理・刃物管理のソフトウェア
- ②工場内に設置された専用大型モニターによってすぐに現況を確認できる
- ③工場内で専用タブレットを操作する社員
- ④デジタルシステムが整った製造工場

また、現場の声を反映して機能を拡張できる点も大きなメリットであり、技術者が直感的に操作できることも特徴となっている。システム導入に伴う負担も少なく、作業そのものに割ける時間が増えたことで、受注確認や工程チェックにかかる時間も大幅に短縮された。

さらに、デジタル化によって生まれた余剰時間は、若手人材の育成に活用され、組織力の強化にも繋がっている。加えて、同社では長期的な取り組みとして、自動車関連を含む新分野への展開など、収益獲得の多角化も視野に入れており、今回のデジタル基盤整備はその基礎づくりとして位置づけられている。

ペーパーレス推進で組織改革へ 次の成長ステージに向けた新たな取り組み

今回、システム転換の実践で特に実感していることのひとつに、ペーパーレス化がある。それまでは製造現場や事務作業で使用した書類が倉庫に積み上がり、保存期間の過ぎた書類をトラックで廃棄する作業が当たり前のようになり繰り返されてきた。しかし、デジタル化により、手間も時間も場所も削減され、生産性向上への取り組みや人材育成に時間を割くことが可能となった。

担当の福田仁品質管理課課長は「効率化によって生まれた利点は、採用も含めた体制整備に活かし、個人の能力開発や人材育成にも発展することを期待している。長期的には自動車以外の部品製造などを社内に取り込んで収益獲得を推し進めたい」と、先を見据える。

社内における「業務の見える化」と「情報の共有」がリアルタイムで可能となり、組織的な環境整備を成功させたことで、今後も時代の潮流を見据え、歴史を積み上げながら新しい分野に目を向け、生産量拡大を目指すことにしている。

Company Data

有限会社木村鉄工所



外観

代表者名	木村 文彦
設立年	1960（昭和35）年
資本金	64,000千円
従業員数	22名
主たる業種	輸送用機械器具製造業
本社	〒691-0031 出雲市東福町1984-11
電話	0853-63-3551
FAX	0853-63-3415
URL	https://kimura-iron.work